

作成年月日	令和3年5月31日
作成部局	企画県民部知事室芸術文化課

兵庫陶芸美術館 特別展「^{あかぎきよし}受贈記念 赤木清士コレクション
古伊万里に魅せられて—江戸から明治へ—」の開催



佐賀 有田 《釉下彩大阪鉄橋図大皿》
明治時代
兵庫陶芸美術館（赤木清士コレクション）

1 展覧会の概要

江戸時代初め、肥前有田で磁器の生産が始まり、江戸後期から明治期には斬新で大胆な構図や時代を投影したモダンな意匠が生み出されます。

本展では、神戸のランプ収集家としても有名な故赤木清士氏が収集し、兵庫陶芸美術館が令和2年度に受贈した、江戸から明治の肥前磁器を中心とした「赤木清士コレクション」によって、陶磁器に描かれた図様の魅力を紹介します。江戸から明治へと時代が移行していく当時の息吹も感じながら、488点におよぶ作品をお楽しみ下さい。

2 展覧会のポイント

(1) 陶磁器に描かれた豊富な意匠

江戸期の古伊万里の名品に見られる代表的な意匠から明治・大正期の時代を投影した意匠まで、多様なデザインによってコレクションの魅力を紹介します。

(2) うつわに見る技術革新

文明開化による生活の変化や、軍国主義といった時代を投影した意匠は、装飾技術の進化とともに時代の流れを楽しめるものとなっています。

(3) 総点数 488 点を前期・後期で一挙に公開

コレクションには大人数の会食に供される大皿や、個々に配膳される組み物の器も数多くみられます。一点もの大皿から最大 40 枚組の組み物まで、赤木氏が特に愛好した西洋人や空想上の異国人の意匠にも焦点を当てながら、総点数 488 点のコレクションを一堂に紹介します。

3 会期 2021年6月12日(土)～8月29日(日)

前期:6月12日(土)～7月18日(日)、後期:7月20日(火)～8月29日(日)

4 開館時間 10:00～18:00 (7月～8月の土曜日と日曜日は9:30～19:00)

※入館は閉館時間の30分前まで。

5 休館日 月曜日(※ただし、8月9日(月・振休)は開館し、8月10日(火)は休館)

6 観覧料 一般600円(500円)、大学生500円(400円)、高校生以下無料

- ・()内は20名以上の団体料金です。
- ・70歳以上は半額になります。
- ・障害のある方は75%割引、その介助者の1名は無料になります。
- ・17:00以降に観覧される場合は夜間割引(一般300円、大学生250円)

7 主催 兵庫陶芸美術館、神戸新聞社

【問い合わせ先】兵庫陶芸美術館
学芸課、企画・事業課
電話：079-597-3961
FAX：079-597-3967
E-mail: togei@pref.hyogo.lg.jp

Edo

Meiji

古伊万里に魅せられて
—江戸から明治へ—

受贈記念 赤木清土コレクション



肥前 有田
染付日本地図文大皿
「本朝天保年製」銘
江戸時代後期(1830~1840年代)



佐賀 有田
袖下彩大阪鉄橋図大皿
明治時代(19世紀後半~末)

2021年6月12日(土) 8月29日(日)

前期 6月12日(土) 7月18日(日) 後期 7月20日(火) 8月29日(日)

〈休館日〉月曜日 [ただし、8月9日(月・振休)は開館し、8月10日(火)は休館]

〈開館時間〉10:00~18:00 [7月~8月の土曜日と日曜日は9:30~19:00]

※入館は閉館の30分前まで

〈観覧料〉一般 600円(500円)、大学生 500円(400円)、高校生以下 無料

※()内は、20名以上の団体割引料金です。

◆70歳以上の方は半額になります。 ◆障害のある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

◆17:00以降に観覧される場合には、夜間割引料金になります。(一般 300円、大学生 250円)

主催/兵庫陶芸美術館、神戸新聞社

後援/兵庫県、兵庫県教育委員会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会、丹波市教育委員会

公益財団法人 兵庫県芸術文化協会、公益財団法人 兵庫県国際交流協会

協力/丹波立杭陶磁器協同組合

肥前 志田
染付眺望図皿(文様部分)
江戸時代後期(19世紀)



Edo



肥前 有田
染付松竹梅唐草文鉢
江戸時代中期～後期(18世紀中頃～末)

日本における磁器生産に大きな役割を果たしたのが、肥前有田(佐賀県)です。17世紀初頭、この地で日本初の磁器が作られました。肥前で作られた磁器は、積み出し港の名にちなんで、伊万里焼と呼ばれました。

白い素地に藍色の濃淡が美しい染付や鮮やかな色絵が施された磁器は人々を魅了し、17世紀半ばから18世紀半ばにかけては、オランダの東インド会社を通じて海外にも輸出されました。19世紀初頭には肥前を追随すべく瀬戸(愛知県)や京(京都府)など各地で磁器が焼かれるようになり、町人文化が全盛を迎えるなかで、様々なうつわが人々の暮らしを彩りました。

明治に入ると、幕末から巻き起こったジャポニスムによって、日本の陶磁器は海外でも広く求められました。一方で、国内に向けた生産も引き続き行われ、釉下彩や銅版転写などの新たな装飾技術が導入されます。描かれるモチーフも、時々の流行に応じて変化し、斬新で大胆な構図や、風景を切り取った意匠が生み出され、

肥前 有田
色絵花盆文大皿
江戸時代中期
(17世紀末～18世紀前半)



肥前 有田
色絵草花紅毛人象文大皿
江戸時代後期～明治時代
(19世紀中頃～後半)



肥前 有田
色絵花鳥文調味料入插物(7点組)
江戸時代中期(18世紀初頭～中頃)



佐賀 有田(深川製磁)
色絵唐花文大皿
明治時代～昭和時代
(20世紀前半)



佐賀 有田
色絵婦人草花文蓋付碗(10客)
明治時代(19世紀後半～20世紀初頭)
<前期のみ展示>

岐阜 美濃
色絵大演習園小皿
明治30年代前半(1897～1902年頃)



古伊万里に魅せられて

江戸から明治へ

受贈記念 赤木清士コレクション



佐賀 有田(瀬戸口富右衛門)
色絵電線図大皿
明治時代(19世紀後半～20世紀初頭)

Meiji

佐賀 有田
染付椿鳥文大鉢
明治時代～昭和時代(19世紀末～20世紀前半)
<前期のみ展示>



文明開化による暮らしの変化をいち早く取り入れたものや、富国強兵政策を印象付けるものも作られました。

赤木清士氏(1932-2019)は建設業を営む傍ら、神戸異人館街でランプと出会ったことをきっかけに、日本の灯火具や近代のものづくりと深くかかわる科学技術史資料の収集に情熱を注ぎます。1965(昭和40)年頃から収集を始めた陶磁器においても、鉄橋や電線が描かれた作品を特に愛好し、有田で作られた作品を中心に志田焼(佐賀県)や美濃焼(岐阜県)などを含む200点以上のコレクションを形成しました。

本展では、氏が収集したコレクションを通して、江戸時代の古伊万里から、明治、そしてその後へと続く、うつわに描かれた図様の魅力を紹介します。バラエティーに富んだ意匠とともに、江戸から明治へと時代が移行していく当時の息吹も感じながらお楽しみいただければ幸いです。

会期中一部作品の展示替えを行います

前期 6月12日(土)～7月18日(日)

後期 7月20日(火)～8月29日(日)

記念講演会

「赤木清士コレクションを楽しむ
—江戸から明治の肥前磁器を中心に—

日時/7月10日(土) 13:30～15:00(開場は13:00)
講師/鈴木由紀夫氏(佐賀県立九州陶磁文化館館長)
会場/当館研修棟1階セミナー室
※聴講には本展の観覧券(半券可)が必要です。
※事前申込制(先着110名)

ワークショップ

「お皿に型紙摺り体験！」

日時/8月21日(土)
[午前] 10:00～12:00 [午後] 13:30～15:30
場所/当館エントランス棟1階工房
応募〆切/7月21日(水) 16:00
※事前申込制(有料、午前・午後の2回実施、定員各10名、
応募者多数の場合は抽選)

当館学芸員による ギャラリートーク

日時/6月19日(土)、7月3日(土)
7月17日(土)、7月31日(土)
8月14日(土)、8月28日(土)
いずれも11:00から1時間程度
※観覧券が必要です。

<各イベントに関する詳細はお問い合わせ下さい。>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展覧会、イベント等の会期や内容に変更が生じる可能性があります。最新情報は兵庫陶芸美術館ホームページにてご確認ください。

同時開催のテーマ展

丹波焼の世界 season5 2022年2月27日(日)まで

次回特別展

「ザ・フィンランドデザイン展 -自然が宿るライフスタイル-」
2021年9月11日(土)～11月28日(日)

土と語る、森の中の美術館
兵庫陶芸美術館
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4 TEL.079-597-3961 https://www.mcart.jp

Facebookもチェック



【鉄道・バスをご利用の場合】

●JR福知山線「相野駅」下車(大阪駅から約50分)
駅前から神姫グリーンバス「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」
または「清水寺」行き乗車約15分、「兵庫陶芸美術館」下車
※相野駅発バス時刻 9:35、10:20、13:00、15:45、16:47
土・日・祝は10:44、11:44、14:00が増便(2021年4月現在)

【自動車をご利用の場合】

●舞鶴若狭自動車道・三田西ICから約15分、または丹波篠山ICから約20分
●中国自動車道・滝野社ICから国道372号を東へ約30分
●阪神方面から国道176号線を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分
●駐車場無料(敷地面 普通車58台分)、大型可

【その他】

●無料貸出有(車椅子4台、ベビーカー2台)

プレス
リリース

Press
Release

受贈記念 赤木清士コレクション

江戸から明治へ

古伊万里に魅せられて



The AKAGI COLLECTION Fascinated by KO-IMARI: From the Edo Period to the Meiji Period

2021年6月12日(土)

8月29日(日)

左上から：肥前 有田 染付日本地図文大皿「本朝天保年製」銘 江戸時代後期（1830～1840年代）
肥前 有田 色絵草花紅毛人象文大皿 江戸時代後期～明治時代（19世紀中頃～後半）
肥前 有田 色絵花鳥文調味料入揃物（7点組） 江戸時代中期（18世紀初頭～中頃）

右上から：佐賀 有田 釉下彩大阪鉄橋図大皿 明治時代（19世紀後半～末）
佐賀 有田 色絵電線図大皿 明治時代（19世紀後半～20世紀初頭）
佐賀 有田 色絵婦人草花文蓋付碗（10客） 明治時代（19世紀後半～20世紀初頭）〈前期のみ展示〉
所蔵はすべて兵庫陶芸美術館（赤木清士コレクション）

土と語る、森の中の美術館



兵庫陶芸美術館
The Museum of Ceramic Art, Hyogo



受贈記念 赤木清士コレクション 古伊万里に魅せられて —江戸から明治へ— について

日本における磁器生産に大きな役割を果たしたのが、肥前有田（佐賀県）です。17世紀初頭、この地で日本で初めて磁器が作られました。肥前で作られた磁器は、積み出し港の名にちなんで、伊万里焼と呼ばれました。

白い素地に藍色の濃淡が美しい染付や鮮やかな色絵が施された磁器は人々を魅了し、17世紀半ばから18世紀半ばにかけては、オランダの東インド会社を通じて海外にも輸出されました。19世紀初頭には肥前を追随すべく瀬戸や京都など各地で磁器が焼かれるようになり、町人文化が全盛を迎えるなかで、様々なうつわが人々の暮らしを彩りました。

明治に入ると、幕末から巻き起こったジャポニズムによって、日本の陶磁器は海外でも広く求められました。一方で、国内に向けた生産も引き続き行われ、釉下彩や銅版転写などの新たな装飾技術が導入されます。描かれるモチーフも、時々の流行に応じて変化し、斬新で大胆な構図や、風景を切り取った意匠が生み出され、文明開化による暮らしの変化をいち早く取り入れたものや、富国強兵政策を印象付けるものも作られました。

故赤木清士氏（1932-2019）は建設業を営む傍ら、神戸異人館街での出会いをきっかけに、文明開化に象徴されるランプの蒐集を始めます。その情熱は、日本の灯火具や近代のものづくりと深くかかわる科学技術史資料などへも広がります。1965（昭和40）年頃から蒐集を始めた陶磁器においても、鉄橋や電線が描かれた作品を特に愛好し、有田で作られた作品を中心に志田焼（佐賀県）や美濃焼（岐阜県）などを含む200点以上のコレクションを形成しました。

本展では、氏が蒐集したコレクションを通して、江戸時代の古伊万里から、明治、そしてその後へと続く、うつわに描かれた図様の魅力を紹介します。バラエティーに富んだ意匠とともに、江戸から明治へと時代が移行していく当時の息吹も感じながらお楽しみいただければ幸いです。

◆展覧会の特徴

（1）陶磁器に描かれた豊富な意匠

赤木清士コレクションは、有田（佐賀県）で作られた製品を中心としたコレクションです。江戸後期から明治期に作られた作品が多くを占めるものの、全体をみると江戸前期から昭和前期と製作時期の幅は非常に広く、産地も志田（佐賀県）、美濃（岐阜県）、九谷（石川県）などを含みます。江戸期の古伊万里の名品に見られる代表的な意匠から明治・大正期の時代を投影した意匠まで、多様なデザインによってコレクションの魅力を紹介します。

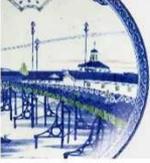
（2）うつわに見る技術革新

江戸時代後期には肥前以外の他産地でも磁器の生産が始まり、明治期以降には釉下彩や銅版転写などの新たな技術が導入されます。本コレクションの特長の一つとして、有田や美濃で作られた釉下彩の大皿や銅版転写による装飾を施したうつわが多く見られることが挙げられます。文明開化による科学技術の発展や、軍国主義といった時代を投影

した意匠は、装飾技術の進化とともに当時の息吹を楽しめるものとなっています。

(3) 総点数 488 点を前期・後期で一挙に公開

コレクションには大人数の会食に供される大皿や、個々に配膳される組み物のうつわも数多くみられます。本展では氏の収集に想いを馳せ、一点もの大皿から最大 40 枚組の組み物まで、作品を収集する楽しみや、氏が特に愛好した西洋人や空想上の異国人の意匠にも焦点をあてながら、この度受贈した総点数 488 点のコレクションを一堂に紹介します。



展覧会概要

◆展覧会名称

受贈記念 赤木清土コレクション 古伊万里に魅せられて—江戸から明治へ—

◆英文名称

The AKAGI COLLECTION Fascinated by KO-IMARI: From the Edo Period to the Meiji Period

◆会 期：2021 年 6 月 12 日（土）～8 月 29 日（日）（68 日間）

前期：6 月 12 日（土）～7 月 18 日（日） 後期：7 月 20 日（火）～8 月 29 日（日）

◆開館時間：10：00～18：00（7 月～8 月の土曜日と日曜日は 9：30～19：00）

※入館は閉館の 30 分前まで

◆休 館 日：月曜日

※ただし、8 月 9 日（月・振休）は開館し、8 月 10 日（火）は休館

◆観 覧 料：一般 600 円（500 円）、大学生 500 円（400 円）、高校生以下無料

※（ ）内は、20 名以上の団体割引料金です。

※70 歳以上の方は半額になります。

※障害のある方は 75%割引、その介助者 1 名は無料になります。

※17：00 以降に観覧される場合は、夜間割引料金になります。

（一般 300 円、大学生 250 円）

◆会 場：兵庫陶芸美術館 展示室 1・2・4・5

◆出品点数：234 件（488 点）

◆主 催：兵庫陶芸美術館、神戸新聞社

◆後援：兵庫県、兵庫県教育委員会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会、丹波市、丹波市教育委員会、公益財団法人 兵庫県芸術文化協会、公益財団法人 兵庫県国際交流協会

◆協力：丹波立杭陶磁器協同組合



関連イベント

◆ギャラリートーク：当館学芸員による展示解説

[日時] 2021年6月19日(土)、7月3日(土)、7月17日(土)、7月31日(土)、8月14日(土)、8月28日(土) いずれも11:00より1時間程度(観覧券が必要です。)

◆ワークショップ：「お皿に型紙摺り体験！」

[日時] 2021年8月21日(土) [午前]10:00～12:00、[午後]13:30～15:30

[場所] 当館エントランス棟1階 工房

※事前申込制(有料、午前・午後の2回、定員各10名、応募者多数の場合は抽選)

※応募締切 2021年7月21日(水) 16:00

◆記念講演会「赤木清士コレクションを楽しむ—江戸から明治の肥前磁器を中心に」

[日時] 2021年7月10日(土) 13:30～15:00(開場は13:00)

[場所] 当館研修棟1階セミナー室

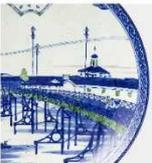
[講師] 鈴田由紀夫氏(佐賀県立九州陶磁文化館館長)

[定員] 110名(事前申込制、先着順)

※聴講には本展の観覧券(半券可)が必要です。

※各イベントに関する詳細は、お問い合わせください。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、展覧会を含め各イベントにつきましては変更・中止となる場合があります。最新情報は、当館ホームページをご確認いただくか、お問い合わせください。



お知らせ・お問い合わせ

◆同時開催のテーマ展

「丹波焼の世界 season5」

2022年2月27日(日)まで

◆次回特別展

ザ・フィンランドデザイン展ー自然が宿るライフスタイルー

2021年9月11日(土)～11月28日(日)

◆交通のご案内

・JR 福知山線「相野駅」下車

駅前より神姫グリーンバス「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き
乗車約15分、「兵庫陶芸美術館」下車

・JR 福知山線「篠山口駅」下車

・舞鶴若狭自動車道・三田西ICより約15分、または丹南篠山口ICより約20分

◆本資料に関するお問い合わせ

兵庫陶芸美術館

広報担当：企画・事業課 澤野 洋子 (サノ ヨウコ)

E-mail : Youko_Sawano@pref.hyogo.lg.jp

展覧会担当：学芸課 村上 ふみ (ムラカミ フミ)

E-mail : Fumi_Murakami01@pref.hyogo.lg.jp

住所：〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4

T E L : 079-597-3961

F A X : 079-597-3967

ホームページ : <https://www.mcart.jp>